

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業

「慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立に対する研究」

第1回班会議（H25年度）議事録

日時：平成25年11月4日（月）14:30~16:30

場所：コンベンションルームA P 東京八重洲通り 12階 会議室D + E

出席者（敬称略）

倉田二郎（代理：池田衣里）、齋藤 繁（代理：荻野祐一）、福井 聖、大鳥精司、西原真理、竹林庸雄、川上 守、越智光夫（代理：平松武）、竹下克志（代理：大谷隼一）、松本守雄、住谷昌彦、紺野慎一、矢吹省司、関口美穂、二階堂琢也

欠席者（敬称略）

大城宜哲

議題

1) 多面評価の質問票項目解析について

a. 対象者224例の質問票が回収された

b. 質問票内の項目ごとの、対象者背景と因子分析データについての報告

質問票内の項目の絞り込み案の提示

サブ解析の必要性があるであろう。重み付けができるような解析を行ったほうがよいのではないか等の意見があった。QOLの観点から慢性疼痛や難治性疼痛の定義を探索するのがよいのではないか（東大住谷先生）

c. 画像解析について

広島大学の平松先生から、fMRIを用いての変形性膝関節症と健常者との比較についての概要の説明があった。本研究の成果として報告する。群馬の荻野先生から、Voxel-based morphometry (VBM)のデータは集積しているが、年齢をマッチさせた健常者データがまだ十分ではない。福島県の矢吹先生から、健常者のデータを集積できるので、年齢をマッチさせてデータを共有できるようにしましょうという提案があった。滋賀の福井先生もデータを集積している。

d. その他

血中のBDNFの測定は有用であるのか。和歌山の川上先生から、測定を試みているが、正常値がないこと、日内変動があるなどの問題がある。

紺野先生より、これらも含めて、本研究からさらなるテーマがたくさんできそうなので、分担者間で共同研究を発展的に行ってはといいかがとの提案があった。本研究グループから、結果をまとめて本を出版する予定である。

2) 最終年度のまとめについて

画像解析を行っている先生からは、合同報告会も含めスライド5枚以内で概要を作成いただく。報告書の冊子(本年度分、3年分まとめ)を作成予定なので、業績を含めた内容の依頼をする。分担者から報告を作成して頂く(1月ごろにメールにて依頼する)。

3) 今後の予定

- ・ 6班の合同報告会の出欠についてのお伺いメールを送信しているので、出席される先生は返信してください。
- ・ 次回の班会議の日程は、メールで調整する。次回の会議は平成26年2月頃に計画する。